



キミも英検[®]に チャレンジしよう! ～英検新方式って何?～

英検は級を取得しておく、日頃の英語学習の目安としてだけでなく、大学入試、就職、海外留学など将来にわたって幅広く大きなメリットがあります。英検を君の英語学習の伴走者にして、本物の英語力をどんどんつけていこう!



実用英語技能検定(英検[®])は、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の英語力を測定するための試験です。7つのグレードに別れ、小学生から社会人まで幅広い年齢層が受験できる日本で最もポピュラーな英語検定試験です。

◆変わる「英検[®]」

英語教育改革に対応すべく、英検は4技能化を促進している。昨年度第一回検定の「準2級」「3級」にライティングテストが導入されたことにより、**3級以上の全級で4技能化が実現した。**

〈実用英語技能決定の各級における判定技能一覧〉

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
リーディング	○	○	○	○	○	○	○
リスニング	○	○	○	○	○	○	○
スピーキング	○	○	○	○	○	○	○
ライティング	○	○	○	○	○	○	○

○ 早期実現を目指し準備中

英検4技能化リニューアルについての詳細は、

CHECK! 旺文社「英検[®]新試験情報サイト」
(https://www.obunsha.co.jp/pr/new_eiken/)

英検級ごとの解説&対策、旺文社英検書情報を掲載。

◆大学入試外部検定としての「英検[®]」

大学入試で利用できる「英語外部検定」。一般入試に導入されて4年目となる。2018年度も外部検定の利用は広がりを見せており、英検は**今年度も採用率94.4%でトップだ。**(旺文社教育情報センター調べ)

また、2020年度から実施される「大学入学共通テスト」(前号で特集)で活用される英語認定試験として、**英検は新方式の、以下①～③の3種が認定された。**従来型は一次筆記試験合格者のみが二次試験(スピーキングテスト)を受験できるが、**新方式では受験者全員が二次試験を受けることができる。**

	従来型	①公開会場実施(仮称)	②1日完結型(仮称)	③英検CBT(仮称)
実施開始	1963年	2019年度(予定)	2019年度(予定)	2018年8月(予定)
Reading Writing Listening	1～3級 年齢制限なし PBT*	1～3級 高校3年 PBT	準1～3級 高校3年 PBT	2～3級 年齢制限なし CBT*
	合格者のみ 別日	全員 別日	全員 同日	全員 同日
Speaking	対面式	対面式	録音式	録音式

*情報:公益財団法人日本英語検定協会(英検協会) HPより

*PBT…Paper Based Test (ペーパーテスト)

CBT…Computer Based Test (コンピュータを使ったテスト)

*「高校3年」記載箇所…浪人生含む(予定)

英検協会によれば、従来型と新方式との違いはその点(運営方法)だけで、**問題構成、級認定、技能別スコア等、両者は全く同じもの**としている。

◀2018年度 英検[®]試験日程▶

2018年度実施	受付期間	一次試験	二次試験
第1回英検	3月9日～5月11日(書店は5月7日締切)	本会場:6月3日(日) 準会場(すべての団体):6月2日(土)、3日(日)	A日程:7月1日(日) B日程:7月8日(日)
第2回英検	8月1日～9月14日(書店は9月7日締切)	本会場:10月7日(日) 準会場(すべての団体):10月6日(土)、7日(日)	A日程:11月4日(日) B日程:11月11日(日)
第3回英検	11月30日～12月26日(書店は12月19日締切)	本会場:2019年1月27日(日) 準会場(すべての団体):2019年1月26日(土)、27日(日)	A日程:2019年2月24日(日) B日程:2019年3月3日(日)

また、従来の英検が大学入試に利用できなくなるというわけではなく、**2020年度まではもちろんのこと、「共通テスト」が施行された後も、従来の英検は私立大学での一般入試をはじめ「成績提供システム(※注)」を介さない大学入試では利用できる**ようだ。

尚、検定料をはじめ、受験会場数等、現在発表されているものは今後変更の可能性があるので、定期的に英検協会HP (<http://www.eiken.or.jp/exam-univ/>) をチェックしよう。

(※注)成績提供システム=「大学入試英語成績提供システム」

資格・検定試験の成績を「独立行政法人大学入試センター」に一元的に集約し、要請のあった大学に提供するシステム。大学受験年度の2回までの結果を大学に提供できる。

◆英検CBT[®]

従来の英検CBTは2017年度をもって終了。今年度8月からリニューアルされ、3つの英検新方式の1つとして再開する。CBTとは「Computer Based Testing」=コンピュータを使って受けるテスト。新たな英検CBTの主なポイントは以下の4つ。

- 1 通常の英検と同じ
 - ・大問の校正は通常の英検と同じ。
 - ・通常英検同様、級の合格が認定され、技能別CSEスコアが得られる。
- 2 受験のチャンスが増える
 - ・毎月実施(年3回まで受験可)、英検と合わせ年間計6回受験できる。
- 3 4技能を1日で測れる
- 4 大学入試で利用できる
- 5 3級、準2級、2級の3つの級で実施
 - ・3級が加わったことで高校入試でも活用しやすくなる。

CBTは形式がペーパーベースとは大きく異なるので、形式に慣れるためにも受験しておくといだろう。

結局、大学入試外部検定はどの方式を利用すればいいの?

まず、**大学入学共通テスト(現、大学入試センター試験)で採用される英語外部検定試験は、高3の4月から12月に2回まで事前に申請した試験の結果が大学に通知されることを知っておきましょう。**ですから、それまでにしっかり試験対策をしておかなければなりません。

一方、共通テストを利用せずに従来の英検(現在全国330以上の大学が利用)を利用して私立大学等を受験する場合は原則、受験期間の制限がありません。つまり、従来型英検の過去履歴を活用できます。

さらに、**従来型英検は大学のみならず、多くの高校・高专での入試時にも様々な優遇措置が認められています。**

これらのことから、いずれにしても、**小中学生のうちから従来型英検を受けることを習慣化することが大切です。**教室での英語学習を大切に、「英検」を英語学習の共に走る伴走者にして叱咤激励してもらいながら、4技能を、「本物の英語力」を、伸ばしていきましょう。

そうすれば試験がどんな形になっても、また社会に出て英語を求められる状況になったとしても、自信をもって対応していけるのです。